



問 園児の食物アレルギーへの対応は
答 全保育園・幼稚園で統一したやり方、対応を協議している

【こども未来課長】 保護者は児童のアレルギーに関してきちんと医師の診断を受ける。家庭での食生活や服薬について保育園側に伝える。保育園はアレルギー対応ガイドラインについて職員全員がしっかりと理解し、緊急時の対応についても確認しておくことが大事である。さらに状況変化に対応できる組織体制をつくる必要がある。

問 保護者としての役割、保育士・保育園としての役割は？

【こども未来課長】 資料【P17】大溝保育園における食物アレルギーへの対応(他の保育園・幼稚園も同じような対応をしているとのこと)

問 町内の保育園・幼稚園での現在の取り組み状況は？(栄養士の対応・保育士の対応・保育園としての対応)
小学校・中学校での対応は？



広告掲載のある紙おむつ回収ボックス

地元雇用に関しては、当初計画は24時間営業となっていたこともあり、新規雇用者400人、うち農家世帯員数150人という計画であったが、現在は従業員数173人中、大木町の方が46名であり、半分以上の地元雇用の確約は、達成できていない。地元商店への

問 イオン九州株式会社との確約について、マネジメントサイクルが確立しているか伺う。
産業振興課長 地元農産物コーナーについては、イオン店内の目立つところに設置しており、現在、104人の登録があり、年間2400万円程度の売り上げがある。確約事項である大木町の農業振興に一定の寄与をしていると考える。

影響度調査は、大型店開店時に実施されているがその後については特に無い。また、商工会主催で、毎年町政懇談会が開催されており、意見要望等を伺いながら商工政策を進めていく。
町長 地域の商工業の活性化に向けてどういった施策が必要なのか、行政が指導する立場として、今後JAや商工会等と協議していきたい。

問 副作用として、買い物難民対策が必要と感じるが。

町長 買い物難民に限らず高齢者の足をいかに確保するか、喫緊の課題である。病院に行くにも、高齢者になって免許を取り上げられて足がなくなったとの意見を聞く。大木町に住んでよかつたと思えるまちづくりの施策の1つとして考えている。具体的なプランは持っていないが、商工会と連携を密にし、早い時期に有効な手立てを打てるように努

【こども未来課長】 4つの保育園と幼稚園の園長会で統一したやり方、対応を協議している。今後マニュアル化していきたい。保護者にもきちんと診断書を提出していただくよう統一している。

問 保護者の義務と責任を明確にし、町内に5つある保育園・幼稚園の統一したガイドライン対応での指導体制を。

【こども未来課長】 食物アレルギーに対してガイドライン及び緊急対応マニュアルを全保育園で共有し、対応できるように、その調整機能を発揮する。また意識向上のための研修会等も実施していく。

問 行政としての役割は。

力する。
問 3月に開局した超高速ブロードバンドの利用率と今後の利用策について伺う。
町長 初年度の加入は1062件、23.4%を掲げていたが、8月末の加入は675件、14.9%と、当初計画を下回る結果となっている。今後の活用策については、核家族化社会が進展し、高齢者世帯や独居高齢者世帯の増加が想定される中で、安否確認、救急通報システムや行政、議会の情報チャンネルの導入など、活気に満ちた元気産業のまちづくり、安全・安心なまちづくりの手段としても検討していきたいと考えている。

経営(マネジメント)において、最も重要な原則と言われるのは、マネジメントサイクル(PDCA)の確立です。マネジメントサイクルとは、計画(Plan)↓実行(DO)↓検証(Check)↓改善(Action)を繰り返すこと。継続的な成長を図っていくことです。
ネーミングライツとは
1980年代以降、米国で定着した、主としてスポーツ施設の建設・運用資金調達のための手法。施設の名称にスポンサー企業の社名やブランド名を付与する、広告概念。取引では、施設所有者とスポンサー企業が直接取引を行うケースと、施設所有者とフランチャイズ契約を結んだプロチームがスポンサー企業と直接取引を行うケースの、2種類がある。前者は、施設所有者の多くが公共団体であるため、施設収入を増やし納税者の負担を軽減することが目的。後者の場合、プロチームは従来のチームスポンサーからの収益を確保しつつ、命名権販売によって新たな収入源を得ることが出来る。ヤフードームやベストアメニティスタジアムが有名。



おいしそうな手作り給食!

問 液肥から誕生した「環のめぐみ」「環のかおり」など生産者、消費者の反応は。
環境課長 液肥利用されている生産者としては、化学肥料に比べてコスト削減ができる、手間が省ける、また減農薬、減化学肥料栽培により環境や健康に配慮した栽培方法で、しかも収量は化学肥料並みで食味もよいというご意見をいただいている。消費者の皆さんからも「環のめぐみ」については食味がよいということ好評。「環のかおり」について

問 今後の液肥利用での作物の品目増や生産、販売拡大、ブランド化…その方法、対応策をどう考えるか。
町長 第5次総合計画でも、有機液肥を活用した「くるんプロジェクト」の推進を図りながら、循環型農業の促進と食の安全・安心の確保を推進する。今年度予算でも、緊急雇用創出事業臨時特例基金事業補助金を活用した道の駅周辺農地の整備事業や、町